

望月 貴也「静岡県中部地区における地域金融の役割」

リーマン・ショックに始まる世界的な金融不況で、日本の地域経済も疲弊しています。そうしたなかで、地方銀行・信用金庫・信用組合をはじめとする地域金融機関が地域内の資金循環を促進する役割は、金融機関の社会的責任を持ち出すまでもなく、きわめて大きなものがあるというのは自明のことでしょう。

望月さんは出身地・静岡市内の信用金庫に就職が内定していることもあり、地域金融の役割に注目しました。それぞれの地域によって、地域金融のシェアや競合などの状況は大きく異なるでしょう。静岡市は金融機関数が多く、競合が激しいのだそうです。望月さんが、地域の状況が感覚的につかめる地元・静岡をフィールドに選んだのは、賢明な選択だったと思います。

この論文のなかで良かった点は、地域金融機関の職員や、地域金融機関から融資を受けている企業の経営者にインタビューし、生の声を論文に反映できたことです。統計データだけでは分からないこと、特に金融機関からおカネを借りて事業をしている人たちの目線で地域金融の役割を考える機会が得られたことは、とても貴重な経験だったでしょう。

ただ、静岡市内で地域金融機関がどのように、地域内資金循環の役割を果たしているのか、どんな課題を抱えているのかについて、立ち入った検討がなされないまま、統計データやインタビュー記事が並んだ後に唐突に結論に至っているのは、やや残念な気がします。第3章でこそ望月さんの本領を発揮できたはずなので、もっと力を入れて現地調査を続ければ、より説得力のある論文になったことと思います。

来年度以降、望月さんには金融機関職員として日々の業務に従事しながら、地域金融の役割について考察を深めていってもらいたいと切に願っています。